

電源立地地域温排水対策事業 温排水有効利用事業導入基礎調査 (要 約)

高林 信雄

温排水を有効利用したアワビ増養殖の可能性について検討するための基礎資料を得ることを目的として、アワビ養殖試験（東通地点）、アワビ中間育成試験及び放流アワビ追跡調査（大間地点）を実施した。なお、詳細は「平成5年度電源立地地域温排水対策事業報告書（東通地点）」、「同（大間地点）」（平成6年3月、青森県）として報告した。

（東通地点）

アワビ養殖試験

1. 平成元年からの養殖試験

青森県栽培漁業センターの昭和63年度産エゾアワビ稚貝（平均殻長19.04mm）約2,000個を平成元年7月5日からプラスチック製籠（MA-50型、52×35×27cm）10個に200個／籠で収容して、東通村白糠漁港内（水深10m）で海面養殖試験を実施し、平成2年7月10日からは成長に個体差の出た稚貝をL区（大貝グループ）、S区（小貝グループ）に分けて収容し直し、平成5年6月14日まで継続してきた。

平成5年2月10日の最終測定の結果、平均殻長はL区が74.29mm、S区が65.98mm、平均重量はL区が67.77g、S区が43.20gであった。平成2年7月10日以降の生残率はL区が69.21%、S区が26.29%、平均増殻長はL区が33.31mm（0.035mm／日）、S区が33.06mm（0.035mm／日）、平均増重量はL区が58.21g（0.062g／日）、S区が37.89g（0.040g／日）であった。

2. 平成5年からの養殖試験

青森県栽培漁業センターの平成4年度産エゾアワビ稚貝（平均殻長21.34mm）約2,000個を、平成5年6月26日に東通村白糠漁港内（水深10m）の海面養殖試験施設に収容した。試験はプラスチック製籠（MA-50型、52×35×27cm）を用い200個／籠として行った。平成6年3月9日現在の平均殻長は32.05g、平均重量は4.97g、生残率75.50%であった。また、平均増殻長は10.71mm（0.042mm／日）、平均増重量は3.65g（0.014g／日）であった。

（大間地点）

アワビ中間育成試験

1. 青森県栽培漁業センターの平成4年度産エゾアワビ稚貝（平均殻長22.03mm）3万2千個を平成5年6月10日、大間漁業協同組合水産資源中間育成施設（陸上施設）へ収容し、平成5年10月28日まで中間育成試験を実施した。
2. 育成期間中の水温は15.0～21.4℃、平均増殻長は5.40mm（0.038mm／日）、平均増重量は1.16g（0.008g／日）、生残率97.50%であった。
3. 育成を終了したアワビ31,202個は、平成5年10月29日、潜水により大間町割石地先水深約3mの海域へ全数放流した。

アワビ追跡調査（平成4年放流群）

1. 平成4年11月10日に大間町割石地先海域に放流（放流個数28,883個、放流面積約2,400㎡）したアワビの追跡調査を平成5年10月29日に実施した。（調査点：図-1）
2. 採取したアワビは161個体で、殻頂部の緑色及び殻長からそのうちの89個体が平成4年度の放流貝であると推定された。
3. 外敵生物ではイトマキヒトデが主で、10地点から計35個体が採取された。
4. 海藻ではジョロモク、フシスジモク、ツルアラメの順に多かった。
5. 放流時からの平均増殻長は5.90mm（0.017mm／日）、平均増重量は2.38g（0.007g／日）で、平成4年度に行っ

た平成3年放流貝の追跡調査とほぼ同様の結果となった。

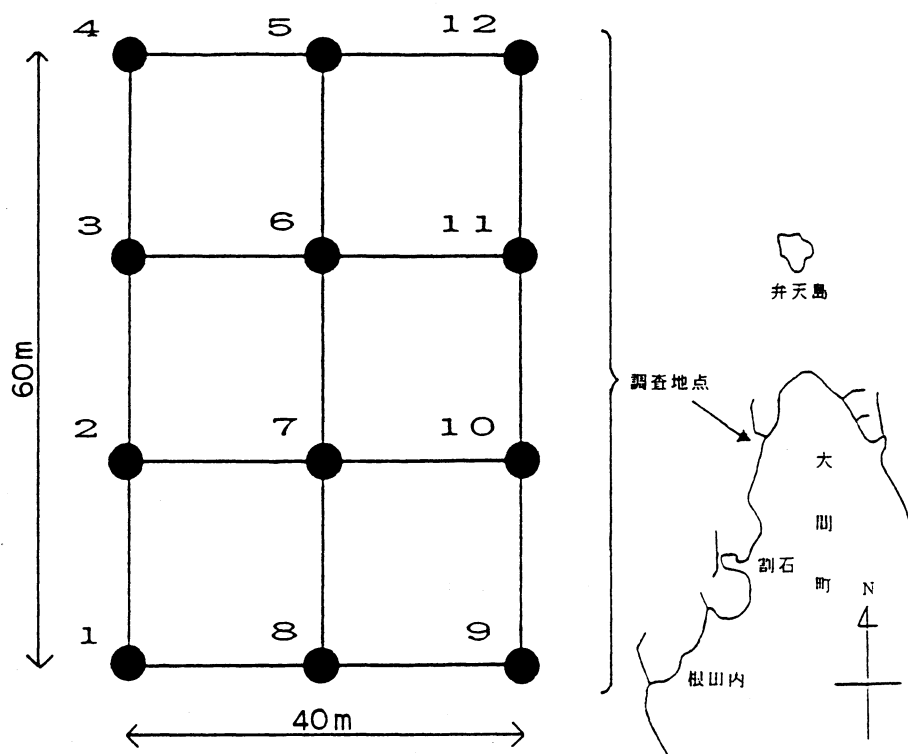


図1 平成4年アワビ放流場所及び調査点